

公表

令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後なかよしクラブ		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 22日		～ 令和 8年 1月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 22日		～ 令和 8年 1月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	① チーム支援と日々の振り返り体制 毎日の終礼での振り返りや情報共有が徹底されており、統一した関わりが実践されている。支援の方向性を話し合う習慣が根付いている。	・毎日の終礼で支援の振り返りを行い、子どもの成長や課題を全職員で共有し、支援開始前に役割分担や活動のねらいを確認し、統一した関わりができるようにしている。 ・ヒヤリハットは再現・検証を行い、具体的な再発防止策を話し合っている。 ・「子どもの最善の利益」を軸に支援の方向性を検討している。 ・職員間で互いの意見を尊重し合う風土づくりを大切にしている。	日々の振り返りや情報共有の仕組みを基盤に、 ・支援のねらいや根拠をより明確に共有する仕組みづくり ・成功事例や工夫事例の蓄積と共有 ・若手職員へのOJT体制の強化を行い、チームとしての専門性向上を図っていきます。
2	② 個別性を大切にした支援計画とモニタリング 保護者・相談支援専門員・学校等と連携し、6か月ごとのモニタリングを実施。スモールステップでの目標設定と見直しが行われている。	・保護者、相談支援専門員、学校等と連携し、多角的視点でアセスメントを実施している。 ・6か月ごとのモニタリングでスモールステップの目標設定と見直しを行っている。 ・支援内容は保護者に分かりやすい言葉で具体的に記載している。 ・子ども本人および家族の意向を丁寧に確認し、計画へ反映している。 ・成功体験を積み重ね、自己肯定感を育む支援を心掛けている。	6か月ごとのモニタリングや多職種連携の強みを活かし、 ・アセスメントの精度向上 ・本人の意思確認をより丁寧にを行う仕組みの整理 ・自己決定支援の実践事例の共有を通して、子ども一人ひとりにより寄り添った支援を充実させていきます。
3	③ 安全管理・危機管理体制の充実 各種マニュアル整備、月1回の訓練実施、ヒヤリハット共有など、安全意識が高く組織的な対応ができています。	・活動スペースとクールダウンスペースを分け、安心して過ごせる環境を整えている。 ・防災・感染症・防犯等の訓練を実施している。 ・アレルギー対応は二重チェック体制で確認している。 ・身体拘束は原則行わない方針を全職員で共有している。 ・虐待防止研修を定期的に行い、倫理綱領を唱和している。	自己決定支援や成功事例の蓄積・共有を行い、支援の質を可視化する。安全管理体制を維持しながら、 ・各種マニュアルの理解度確認と実践的訓練の強化 ・ヒヤリハットの傾向分析による予防的取組 ・保護者への情報発信の充実を進め、より安心して利用していただける環境づくりに努めていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	① アセスメントと記録の標準化不足 ・フォーマルアセスメントツールの統一や、記録様式の客観性・具体性の向上が課題。 要因：職員の経験値に依存する部分があり、共通指標が十分整備されていない。	・支援の質は一定水準を保っているものの、フォーマルアセスメントツールの導入が十分でなく、職員の経験や主観に依存する部分がある。 ・記録様式は統一されているが、客観性・具体性の視点が職員ごとにはばらつきがある。 ・アセスメント結果を支援計画や日常支援へ体系的に反映する仕組みが明文化されていない。	現在もアセスメントや記録を行っておりますが、より客観性・統一性のある支援を目指し、 ・アセスメントツールの活用検討 ・記録の具体性・客観性向上のための研修実施 ・支援計画と日常支援の連動を明確化する仕組みづくりに取り組み、支援の見える化を進めていきます。
2	② 業務改善への反映の可視化不足 ・職員意見や保護者評価が業務改善にどのように活かされたかの検証体制が弱い。 要因：改善策の実施後評価（Check・Action）の仕組みが明文化されていない。	・日々の振り返りは実施しているが、「改善策がどのように反映され、効果があったか」まで検証する仕組みが十分に整っていない。 ・職員意見は出されているが、改善結果のフィードバックや成果の共有が形式化されていない。 ・業務改善の記録がデータ化・見える化されていないため、組織的蓄積が弱い。	日々の振り返りは継続しておりますが、改善内容がより明確に共有されるよう、 ・改善策の実施後評価の仕組みづくり ・職員意見の反映状況の可視化 ・成功事例の蓄積と共有を行い、組織としての成長を図っていきます。
3	③ 地域交流・外部評価の体系化不足 ・地域児童との交流機会や第三者評価が定期的・計画的に実施されていない。 要因：日常支援に重点を置く中で、外部連携の計画化が後回しになっている。	・日常支援の充実に重点を置く中で、地域交流や第三者評価の計画的実施まで十分に手が回っていない。 ・交流は単発的であり、年間計画として体系化されていない。 ・外部評価を定期的に受ける仕組みが明確化されていない。	今後は、 ・地域交流活動の計画的実施 ・関係機関との定期的な情報共有の機会拡充 ・外部評価や助言を活かした運営改善の検討を通して、より開かれた事業所づくりを目指します。